

★学校教育目標	多様な個性を尊重し、一人一人が輝く児童の育成	★重点計画の概要	○自他の“いのち”を大切にし、自己肯定感を高める教育活動の実践 ○対話を通した学びの充実 ○児童自ら課題を見つけ、探究し、協働して考えを深め合い、課題を解決していく「学びの循環」 ○地域をステージとする学びの充実
★目指す学校像（ビジョン）	【めざす児童・生徒像】 ◎やさしい子 ○かしこい子 ○たくましい子 【めざす学校像】 個性を發揮し合い子供が主役の楽しい学校 【めざす教師像】 ○すべての“いのち”を守り、育む教師 ○子供一人一人を大切に温かい学級をつくる教師 ○授業力向上のための研鑽を重ねる教師 ○地域の人や組織とつながる教育活動を展開できる教師 ○学び合いを大切に、創造的な教育活動を展開できる教師 ○特別支援教育にかかわる専門的な知識・技能を身に付けた教師		

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標	評価点	成果指標		
いのち	すべての“いのち”が輝き、よろこびあふれる未来をひらく教育の推進	互いに思いやり助け合う態度を育て、様々な人とかわる体験を重ねることにより、自他の“いのち”を大切に、自己肯定感を高める教育活動を実践する。	毎学期の思いやり週間の実施と振り返り、日常的な道徳の授業の中で対話的な活動を中心に、自己理解、他者理解を深める。そして、学年の実態に応じた学級指導を通して、自他の「いのち」の価値を見つめ、尊重する態度を育成する。	4 4 3 2 1	学年の実態に応じた学級指導を通して、全ての「いのち」の価値を見つめ、尊重する態度を育成することができた と回答した教員が90%以上 学年の実態に応じた学級指導を通して、全ての「いのち」の価値を見つめ、尊重する態度を育成することができた と回答した教員が85%以上 学年の実態に応じた学級指導を通して、全ての「いのち」の価値を見つめ、尊重する態度を育成することができた と回答した教員が80%以上 学年の実態に応じた学級指導を通して、全ての「いのち」の価値を見つめ、尊重する態度を育成することができた と回答した教員が80%未満	4 4 2 1	「自分も周りの友達も大切にすることができた」と回答した児童が90%以上 「自分も周りの友達も大切にすることができた」と回答した児童が85%以上 「自分も周りの友達も大切にすることができた」と回答した児童が80%以上 「自分も周りの友達も大切にすることができた」と回答した児童が80%未満	理想的な「あるべき姿」よりも日々の生活の中でわきあがる感情を大切に、そこから学んでほしい。家庭に居場所を感じづらい子供たちへどのように対話・指導をするのかという点が最悪なケースを考えるうえで重要なのではないかと。	コロナウイルスの対策が必須になりながら3年目を迎えた。ふれあい週間、日常の道徳の授業を中心に、「いのち」を大切に教育活動を行い、児童が相互に尊重し合う雰囲気が出てきている。今後も、「いのち」の大切さを意識できるように活動を続けていく。
学び	一人一人を大切に 多様な学びの実現	一律一斉の学びから、自分に合った多様な学びの創造。児童自ら課題を見つけ、探究し、協働して考えを深め合い、課題を解決していく「学びの循環」を実践する。	週1回の朝学習の時間をベーシックドリルの復習や児童同士の学び合いの時間とし、算数の基礎学力の定着を図る。授業の中に、明確な意図をもった対話を積極的に取り入れ、対話的な学びを通して、児童が自己の考えを広げ深められるようにする。	4 4 3 2 1	校内研の授業や日々の授業研究を通して、児童が「学び続ける」ための発問を工夫することができた と答えた教員が95%以上 校内研の授業や日々の授業研究を通して、児童が「学び続ける」ための発問を工夫することができた と答えた教員が90%以上 校内研の授業や日々の授業研究を通して、児童が「学び続ける」ための発問を工夫することができた と答えた教員が85%以上 校内研の授業や日々の授業研究を通して、児童が「学び続ける」ための発問を工夫することができた と答えた教員が85%未満	4 3 2 1	「友達の考えを聞いたり、自分の考えを言ったりすることで、新しい考えに気付いたり、自分の考えが深まったりした」と答えた児童が95%以上 「友達の考えを聞いたり、自分の考えを言ったりすることで、新しい考えに気付いたり、自分の考えが深まったりした」と答えた児童が90%以上 「友達の考えを聞いたり、自分の考えを言ったりすることで、新しい考えに気付いたり、自分の考えが深まったりした」と答えた児童が85%以上 「友達の考えを聞いたり、自分の考えを言ったりすることで、新しい考えに気付いたり、自分の考えが深まったりした」と答えた児童が85%未満	自分が説明することで、自分の理解が深まるという点は、仕事でも同様に感じる。小学生からこうした対話的な学びをすることはよいと思う。一方的に授業を受けているとわからないままだったり、分かったつもりでいたりする子が増えていくように感じるので、グループでの話し合いや発表の場をもつことで粘り強く、学び続ける子に育つと感じます。	研究を通して、教員は対話を取り入れた授業研究に対し達成感を感じている。児童の振り返り等を見ていると、学力の低い児童は、友達の考えを聞く対話を通して考えが深まったと感じている一方で、学力の高い児童の方が、対話を通して自分の考えが深まると感じる機会が少ないことがわかる。
学び	一人一人を大切に 多様な学びの実現	一律一斉の学びから、自分に合った多様な学びの創造。児童自ら課題を見つけ、探究し、協働して考えを深め合い、課題を解決していく「学びの循環」を実践する。	授業の中でミライシードやJamboard等の情報ツールを活用し、お互いの考えを共有していくことによって、各教科の学びを深めていく。ミライシードのドリルパーク等を活用し、既習内容の定着を図るとともに、自らの課題を見つけ、課題解決に取り組む。	4 4 3 2 1	授業において協働的な学びを行ったり、既習内容の定着を図ったりするために、積極的にICTツール活用していくことができた と答えた教員が80%以上 授業において協働的な学びを行ったり、既習内容の定着を図ったりするために、積極的にICTツール活用していくことができた と答えた教員が70%以上 授業において協働的な学びを行ったり、既習内容の定着を図ったりするために、積極的にICTツール活用していくことができた と答えた教員が60%以上 授業において協働的な学びを行ったり、既習内容の定着を図ったりするために、積極的にICTツール活用していくことができた と答えた教員が60%未満	4 3 2 1	ICTツールを使って、「クラスの友達の考えを知ること、自分の考えが深まった。」、「苦手な学習に進んでチャレンジすることができた。」と答えた児童が80%以上 ICTツールを使って、「クラスの友達の考えを知ること、自分の考えが深まった。」、「苦手な学習に進んでチャレンジすることができた。」と答えた児童が70%以上 ICTツールを使って、「クラスの友達の考えを知ること、自分の考えが深まった。」、「苦手な学習に進んでチャレンジすることができた。」と答えた児童が60%以上 ICTツールを使って、「クラスの友達の考えを知ること、自分の考えが深まった。」、「苦手な学習に進んでチャレンジすることができた。」と答えた児童が60%未満	子供たちが「ドリルパーク」を楽しそうに活用しているのが何より。ICTツールを使って考えを共有することも考えを深めやすい。先生方も努力されていると思う。ミライシードやjamboardなど、児童がうまく使いこなせていると思うが、個人差が大きく出ていないかが心配。	教師は、クロムブックを授業で使うことに慣れ、授業を計画する際、いかにICTツールを使うかを考えることができる等、自由に活用できる等、自由な活用も増えている。児童もICTツールを使った授業に慣れ、進んで学習することができている。今後は、ICTツールを活用した授業のみでなく、ノートやワークシートで行う授業の代わりに用いる等、日常的に使いながら学びを深めていけるよう推進していく。
学び	一人一人を大切に 多様な学びの実現	一律一斉の学びから、自分に合った多様な学びの創造。児童自ら課題を見つけ、探究し、協働して考えを深め合い、課題を解決していく「学びの循環」を実践する。	タブレットPCの活用（一人一台端末）及び書籍の活用（学校図書館や市立図書館）を通して、情報を処理し、対話も進めながら課題解決を図る。	4 4 3 2 1	「読書活動指導計画」を基に学校図書館や市立図書館を活用し学習指導を行った教員が80%以上 「読書活動指導計画」を基に学校図書館や市立図書館を活用し学習指導を行った教員が70%以上 「読書活動指導計画」を基に学校図書館や市立図書館を活用し学習指導を行った教員が60%以上 「読書活動指導計画」を基に学校図書館や市立図書館を活用し学習指導を行った教員が60%未満	4 3 2 1	「自分の読みたい本や知りたいことが書かれている本や資料を学校の図書室や市立図書館で探し、活用することができた。」と回答した児童が80%以上 「自分の読みたい本や知りたいことが書かれている本や資料を学校の図書室や市立図書館で探し、活用することができた。」と回答した児童が70%以上 「自分の読みたい本や知りたいことが書かれている本や資料を学校の図書室や市立図書館で探し、活用することができた。」と回答した児童が60%以上 「自分の読みたい本や知りたいことが書かれている本や資料を学校の図書室や市立図書館で探し、活用することができた。」と回答した児童が60%未満	予算面からも中々厳しいと思うが、図書室の本をより充実していただくと嬉しい。寄贈を募るのも良いのではないかと。市立図書館に子供たちがどのくらい通っているのかが気になる。	教師は、図書資料を用い活用を意識的に、多くの教師が学習の充実感を感じている。一方、児童の評価では、半数の児童が活用できていないといった結果になった。授業で活用している図書資料が市立図書館を経由した本であることを知らないことが考えられる他、学年が上がるにつれて評価が低かったのは3年生以上で図書時間割り当てがないことも要因と考えられる。教師側の資料についての解説を増やす他、図書の利用の機会を増やす等対策が必要と考えられる。
地域	地域をステージとする 学びの充実と幼保小中・特別支援学校との つながりによる一貫した 教育活動の充実	地域をステージとする学びを充実させ、幼稚園・保育園、近隣の小中学校、七生特別支援学校とともに地域共生社会を築くべく、つながりによる教育を展開する。	地域の多様な人材である幼稚園・保育園、近隣の小中学校、七生特別支援学校などと相互の関わり合いや学び合いを推進し、交流を深める。	3 3 2 1	「地域の人材を活用して授業を行い、交流を深めることができた」と回答した教員が90%以上 「地域の人材を活用して授業を行い、交流を深めることができた」と回答した教員が80%以上 「地域の人材を活用して授業を行い、交流を深めることができた」と回答した教員が70%以上 「地域の人材を活用して授業を行い、交流を深めることができた」と回答した教員が70%未満	2 3 2 1	「地域や地域の人と学習をして以前より相手を理解することができた」と回答した児童が90%以上 「地域や地域の人と学習をして以前より相手を理解することができた」と回答した児童が85%以上 「地域や地域の人と学習をして以前より相手を理解することができた」と回答した児童が80%以上 「地域や地域の人と学習をして以前より相手を理解することができた」と回答した児童が80%未満	コロナ禍が続き、以前にも増して、交流の場が減少している今だからこそ、学校や幼稚園などが地域交流の機会を多くもつべきだと思う。多様な人と沢山、出会い、関わり合いながら育ててほしい。七生緑小は近隣の七生特別支援学校と深く関わりがもてる点が特徴的だと思う。地域とのつながりは、子供の視野を広げるためにとても良いと思う。	コロナ禍でも学校間交流を止めず「オンライン交流」「クラス紹介」など児童・生徒の関わりを意図的に増やすことで、同じ地域に住んでいる友達という認識が高まった。教員が主体で実施してきたため、あいさつ運動を代表委員会が実施する等児童主体で行い、児童・全職員が意識できるように活動を続けていく。

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。